

村前遺跡

村前遺跡



日田市

日田市埋蔵文化財調査報告書第 128 集

2017 年

日田市教育委員会

2017 年

日田市教育委員会



村前遺跡の空中写真（西から）奥に日隈城を望む

序 文

この報告書は、日田市教育委員会が平成7年度に日隈保育園改築事業に伴い日田地区遺跡群発掘調査事業（現、市内遺跡調査事業）でおこなった村前遺跡の調査内容をまとめたものです。

村前遺跡は、三隈川と庄手川に挟まれた沖積地に所在しており、調査では中世の掘立柱建物や井戸形などが発見され、日隈城北側の沖積帯高地に中世の屋敷跡が広がっていたことがわかりました。

こうした発掘調査の内容をまとめた本書が、今後、文化財の保護や活用、地域の歴史解明、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、ご協力を賜りました皆様方、全ての関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

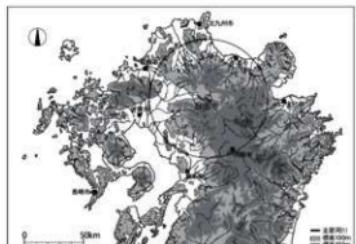
平成29年3月

日田市教育委员会

教育長 三宅 壱治郎

例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成7年度に日田地区遺跡群発掘調査事業（現、市内遺跡調査事業）で実施した村前遺跡の調査報告書である。
 2. 調査は、平成7年度に日田市福祉部福祉事務所の日隈保育園改築事業に伴い、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
 3. 発掘調査は、永田が担当し、整理・報告については上原が担当した。
 4. 調査現場での測量・実測・写真撮影などは担当者が実施した。
 5. 遺物実測・製図・写真撮影、遺構製図、遺物実測図の割付、観察表の作成は、株式会社イビソク大分営業所に委託し、その成果品を使用した。
 6. 掘団中の方位・文中の方位角は、全て略北で示す。
 7. 出土遺物、図面及び写真類は日田市埋蔵文化財センターに保管している。
 8. 本書の執筆・編集は上原が行った。



日田市の位置



本文目次

| | |
|----------------|----|
| I 調査の経過 | |
| (1) 調査に至る経緯 | 1 |
| (2) 調査の組織 | 1 |
| (3) 発掘・整理作業の経過 | 2 |
| II 遺跡の位置と環境 | 2 |
| III 調査の内容 | 4 |
| (1) 調査の概要 | 4 |
| (2) 遺構と遺物 | 4 |
| IV 総括 | 10 |

挿図目次

| | |
|----------------------------------|---|
| 第1図 調査区位置図 (1/2,500) | 1 |
| 第2図 周辺遺跡分布図 (1/15,000) | 3 |
| 第3図 調査区全体図 (1/200) | 5 |
| 第4図 調査区基本土層図 (1/60) | 6 |
| 第5図 1号掘立柱建物出土遺物及び実測図 (1/60, 1/3) | 7 |
| 第6図 2号掘立柱建物実測図 (1/60) | 8 |
| 第7図 井戸実測図 (1/30) | 8 |
| 第8図 土坑実測図 (1/40) | 9 |
| 第9図 土坑出土遺物実測図 (1/3) | 9 |
| 第10図 その他の出土遺物実測図 (1/3) | 9 |

写真図版目次

| | |
|------------------------|----------------|
| 卷頭写真版 | 写真図版2 |
| 村前遺跡の空中写真（西から）奥に日隈城を望む | ① 1号掘立柱建物（北から） |
| 写真図版1 | ② 2号掘立柱建物（東から） |
| 上 調査区空中写真（上が北） | ③ 井戸発掘状況（北から） |
| 下 発掘調査状況（南から） | ④ 土坑発掘状況（南から） |
| | 出土遺物 |

表目次

| | |
|-------------|----|
| 第1表 出土土器観察表 | 10 |
|-------------|----|

I 調査の経過

(1) 調査に至る経緯

平成7年12月11日付で日田市福祉部福祉事務所より文化課に日田市日ノ隈町183番地2にて日隈保育園建て替え工事に先立つ、事前の照会文書が提出された。対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である村前遺跡に該当し、その取扱いについては予備調査が必要である旨の文書回答(平成7年12月26日付、日教委文第760号)をおこなった。その後、翌年1月8日に予備調査の依頼が提出され、平成8年1月16日より人力による予備調査を実施した。その結果、遺構が確認されたことから日田市福祉部福祉事務所と協議を進めたが、建設予定の建物が平屋で基礎が浅く遺跡に与える影響が少ない可能性が高いことや、4月着工のため、調査にかかる予算措置が困難であった事などから、予備調査で遺構が確認された範囲を広げて遺跡の範囲と内容を確認することに留めて対応することとし、重機を用いるなどして遺構の検出及び一部遺構の掘り下げをおこなった。調査は2月8日から3月2日まで実施した。整理作業については、平成27年度に市内遺跡調査事業で再整理を行なっている。

当時の調査組織、調査に関する経緯は以下の通りである。

(2) 調査の組織

発掘調査・整理作業に関する組織は以下の通りである。また、職名は当時のままとしている。

平成7年度(1995年度)／発掘調査

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 加藤正俊(日田市教育委員会教育長)

調査総括 原田良伸(日田市教育委員会文化課長)

調査事務 財津寅日出(同課長補佐兼文化財係長)、土居和幸(同主任)、行時志郎(同主事)

森山敬一郎(同嘱託)、佐々木美保(同臨時職員)

調査担当 永田裕久(同主事補)

発掘作業員 池田千津子、池田豊市、梅木鈴子、江田美代子、梶原みとし、木下力ネ、坂本今朝人、坂本都美子、新川ハツミ、白石高恵、瀬戸口キサエ、高瀬次男、寺口整、野内太一郎、益永勇、松竹智之、毛利三四郎、横尾テル子



第1図 調査区位置図 (1/2,500)

平成27年度（2015年度）／整理作業

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）

調査総括 柴尾健二（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 園田恭一郎（同理蔵文化財係総括兼主幹）～10月

古賀信一（同理蔵文化財係総括兼主幹）10月～、行時桂子（同主査）、渡邊隆行（同主査）、若杉竜太（同主査）、諫山温子（同主任）

整理担当 上原翔平（同主任）

整理作業員 伊藤一美、黒木千鶴子、武石和美、高瀬真奈美、吉田里美

平成28年度（2016年度）／整理作業・報告書刊行

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）

調査総括 池田寿生（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 古賀信一（同理蔵文化財係総括兼主幹）、行時桂子（同主査）、渡邊隆行（同主査）、若杉竜太（同主査）、長祐一郎（同主査）

整理担当 上原翔平（同主任）

（3）発掘・整理作業の経過

発掘作業は、平成28年1月16日より着手した。調査の主な流れは以下の通りである。

1月16日 人力によるトレント確認調査開始

1月31日 確認調査終了

2月 8日 機械による表土剥ぎ及び人力による遺構検出を開始

2月15日 遺構掘下げ作業開始

2月21日 測量開始

3月 2日 空中写真撮影を実施。器材等の整理・撤収を行い現場完了

整理作業については、平成27年9月16日より遺物の再接合など、再整理を開始し、9月28日に再整理を終了している。

II 遺跡の位置と環境

日田市は、大分県西部、筑後川上流域に位置し、標高80m前後の沖積地に広がる市街地の周辺を標高約150m前後の阿蘇溶岩台地が廻り、その外周を標高200～600mの耶馬渓溶岩台地が、さらに市の境界域では700～1,000m級の山々が連なって盆地の景観を形成する。

村前遺跡の所在する日ノ隈町は、日田盆地中心部、三隈川と庄手川の間の沖積地に所在する。川に挟まれた地域であり、過去に幾度となく、河川の氾濫の影響を受けていたと考えられる。以前は盆地内の沖積地では遺跡の保存状態は良くないと考えられていた時期もあったが、近年では日田条里遺跡、瀧ヶ本遺跡、今泉遺跡や柳ノ木遺跡など調査例も増加しており、沖積地でも遺跡が良好な状態で残存していることが確認されている。

遺跡の北方に所在する一丁田遺跡からは、弥生時代から古墳時代の集落が確認され、古墳時代の堅穴建物からは鉄鋌が出土している。そこから更に北西にある吹上台地上には吹上遺跡が所在し、弥生時代前期から終末期の

集落や墓地が確認され、特に中期後半の豪華な副葬には銅戈・銅劍・青銅製把頭飾・鐵劍・貝輪・玉類などの豪華な副葬がされており、当時の首長墓として注目されている。また、西側に所在する徳瀬遺跡では、弥生時代後期から中世までの集落や墳墓群が確認されている。そのなかでも古墳時代前期頃の方形周溝墓の棺内からは、中国後漢鏡「位至三公」鏡片が出土しており、注目される。北西に所在する郷四郎遺跡では、古墳時代の住居や弥生時代から中世までの遺物を出土する包含層が確認されている。さらに北西には荻鶴遺跡が所在し、古墳時代中期の鍛冶工房跡や中世の建物跡が発見されている。このほか、東には文禄3(1594)年に太閤蔵入地となつた日田に入部した宮本長次郎豈盛によって築かれた日隈城がある。

参考文献

- 日田市『日田市史』1990
行時志郎「荻鶴遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第9集 日田市教育委員会 1995
吉田博嗣「徳瀬遺跡3次」日田市埋蔵文化財調査報告書第22集 日田市教育委員会 2000
土居和幸「徳瀬遺跡II」日田市埋蔵文化財調査報告書71集 日田市教育委員会 2006
渡邊隆行「一丁田遺跡II」日田市埋蔵文化財調査報告書第68集 日田市教育委員会 2006
若杉竜太「郷四郎遺跡II」日田市埋蔵文化財調査報告書第82集 日田市教育委員会 2007
若杉竜太「一丁田遺跡」平成27年度(2015)日田市埋蔵文化財調査年報 日田市教育委員会 2016



1. 村前遺跡 (●調査地) 2. 一丁田遺跡 3. 吹上遺跡 4. 郷四郎遺跡 5. 徳瀬遺跡 6. 荻鶴遺跡
7. 日隈古墳・日隈城跡 8. 城下町道路 9. 入能遺跡 10. 瀧ヶ本道路 11. 日田条里道路 12. 今泉道路

第2図 周辺遺跡分布図 (1/15,000)

III 調査の内容

(1) 調査の概要

調査は造成予定範囲（2,201m²）の内、遺構の確認された範囲である943m²を対象におこなった。検出面はほぼ平坦で、掘立柱建物2棟、井戸1基、土坑1基、ピットが多数検出された。平成7年度の報告では、掘立柱建物5棟と報告していたが、個別遺構図が存在せず全体図から建物と判断できなかったため、本報告では2棟のみを報告する。基本層序（第4図）は、現況の水田層より約20cm下から礫を多く含む灰色砂質土の遺構検出面が確認された。その下位より礫を含まない砂質土の堆積が確認されている。おそらくこれらの堆積は、調査地が周辺を流れる三隈川と庄手川に挟まれた氾濫原であり、これらの影響を長期間受けたためと想定される。その下位、地表より約80cm下で明灰色土、黄茶褐色土の自然堆積層が確認されている。なお、第4図の8～10層は調査段階では近・現代の溝と想定されていたが、水田面の下位から掘り込まれていることから、周囲の遺構と同時期の溝の可能性も考えられる。なお、調査区・遺構のレベルについては当時の図面から基準となる高さを読み取ることができなかった為、調査時の記録が確実に記されている井戸のレベルのみ掲載し、そのほかの遺構について、高さは任意としているが、調査地がほぼ平坦であることから検出レベルも井戸とほぼ同様である80.3m前後と想定される。

以下、検出遺構及び遺物についてそれぞれ説明する。

(2) 遺構と遺物

1. 掘立柱建物

1号掘立柱建物（第5図、図版2）

調査区中央部に位置する。南北方向に軸を取り、桁行12間+ α ×梁間3間の建物で心心距離は桁行12.0m+ α ×梁間5.0mの規模を呈する。北側の梁行と東側の桁行に関しては一部検出されていない。柱穴の規模は約30～60cmと幅があり、深さは50cm前後である。

出土遺物

1は須恵器の甕と考えられる。口縁部のみ残存している。

2号掘立柱建物（第6図、図版2）

調査区の西端に位置し、東西方向に軸を取り。桁行は調査区外まで伸びていることから正確な規模は不明だが、桁行2間+ α ×梁行2間の建物で心心距離は桁行2.5m+ α 、梁間3.5mの規模を呈する。図示が可能な遺物は出土していないが、1号掘立柱建物に対して直角に配置していることから、同時期の遺構であると想定される。

2. 井戸（第7図、図版2）

調査区の南西に位置する。東西3.0m×南北2.5mの規模を呈し、深さは1.0m+ α を測る。石組井戸で30～40cm程度の河原石で丁寧に積みあげている。内部構造の確認ため、河原石の除去をおこなうが、2.0m程河原石を取り除いた時点で更に下層から巨石が出土したこと、河原石除去による崩壊の危険性もあることからこれまで以上の作業は困難と判断し、作図も作業上1m程度の深さまでしかおこなえなかった。この他、井戸を囲むように4つのピットが検出されていることから井戸屋形が設けられていたと考えられる。

遺物は出土していない。



3. 土坑（第8図、図版3）

調査区の南西、1号井戸の東側に位置する。平面形は不定形で東西約1.8m×南北約1.0mの規模で、深さは約25~30cmと浅い。土層図が無いため、判然とはしないが、礫が大量に入り込んでいることから、基本層序の灰色砂質土の地山（第4図4層）と考えられる。

出土遺物（第9図、図版3）

1は青磁碗である。口縁部のみ残存しており、外面に蓮弁文が施される。蓮弁には錫が入る。2は白磁碗である。口縁部のみ残存している。外面口縁部の釉薬が厚く一部重れている。3は土師器小皿である。

4. その他の遺物（第10図、図版3）

以下は、試掘時のトレンチより出土した遺物及びピット、検出時に出土した遺物について報告する。

試掘トレンチ

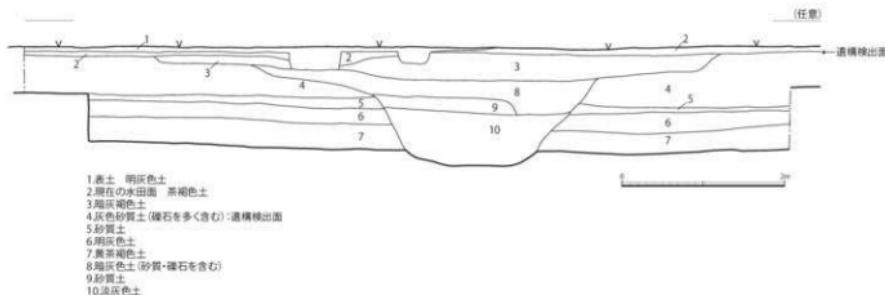
1は土師器壺である。底部に糸切りが残る。2は青磁碗である。底部のみ残存しており、外面に簡略化した蓮弁文が施される。高台内部は露胎しており、付着物がある。

ピット

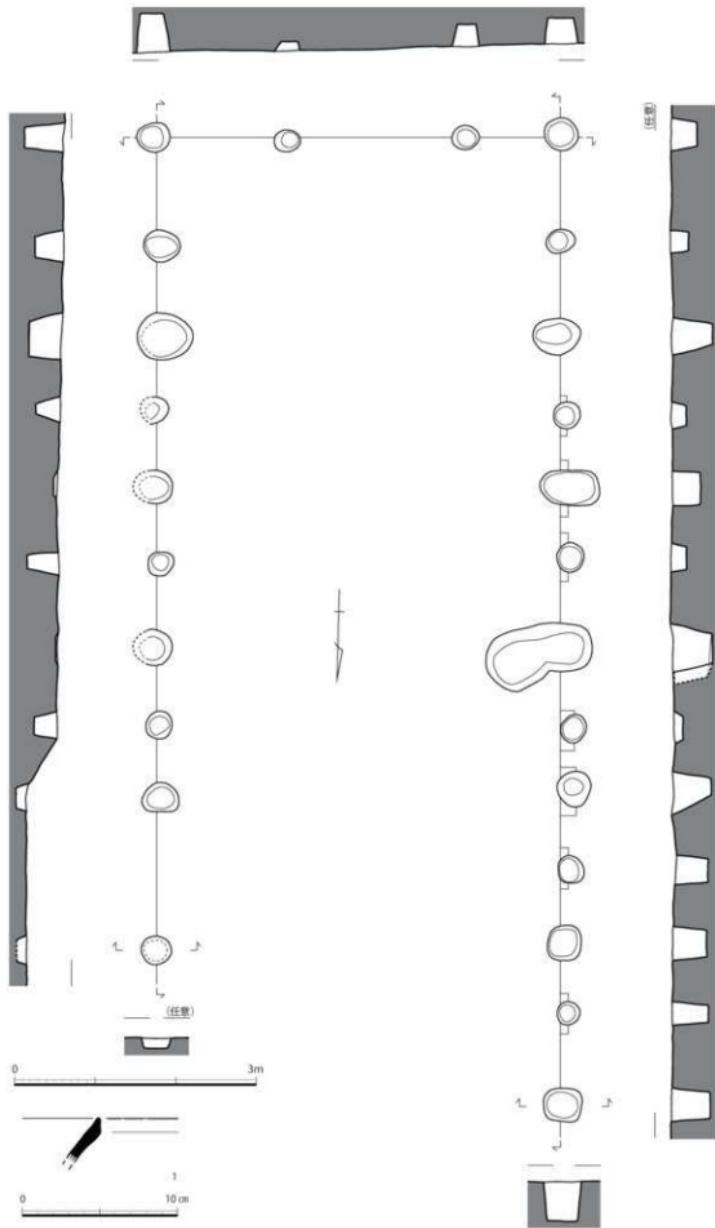
3はP5出土の土師器壺である。底部のみ残存している。底部には糸切り・板状圧痕がある。内外ともに摩滅が激しい。4はP3出土の白磁碗である。内面は施釉があり、外面は底部にかけて露胎している。

検出時出土遺物

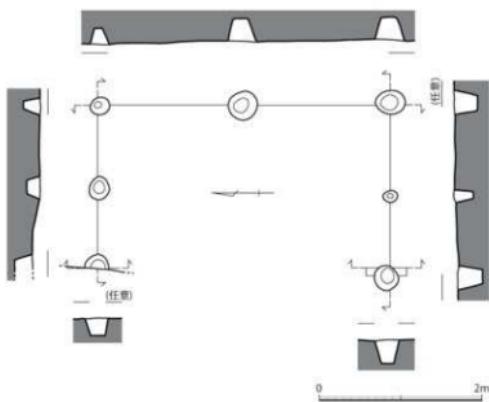
5は弥生土器甕である。胴部のみ残存しており、中央よりやや上位の部分と考えられる。肩部付近には貼付突帯が巡る。6は土師器の甕か。内面の口縁部から胴部の境には稜線が入る。7は土師器壺である。底部から口縁部にかけてやや内湾しながら立ちあがる。底部には糸切り痕が残る。8は青磁碗である。口縁部のみ残存している。内面に簡略化された蓮弁文が入る。



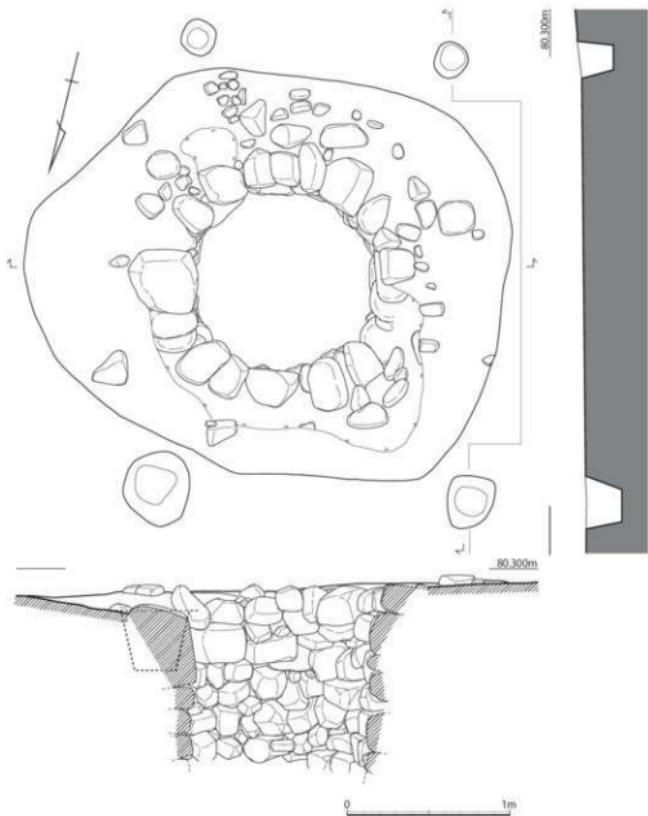
第4図 調査区基本土層図 (1/60)



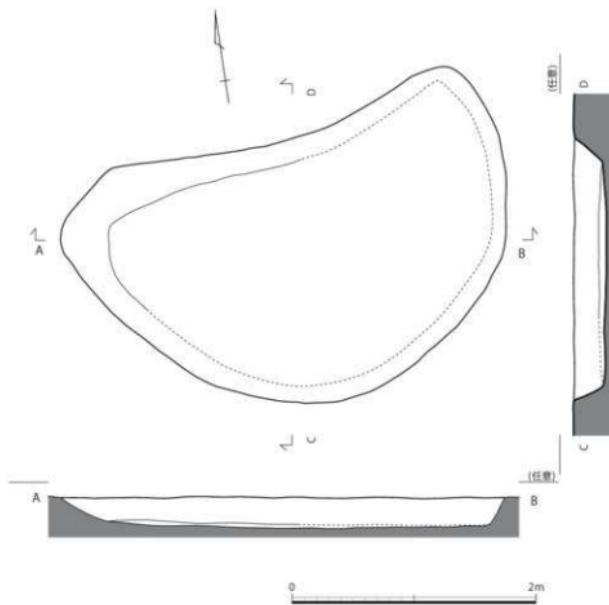
第5図 1号掘立柱建物及び出土遺物実測図 (1/60, 1/3)



第6図 2号掘立柱建物実測図 (1/60)



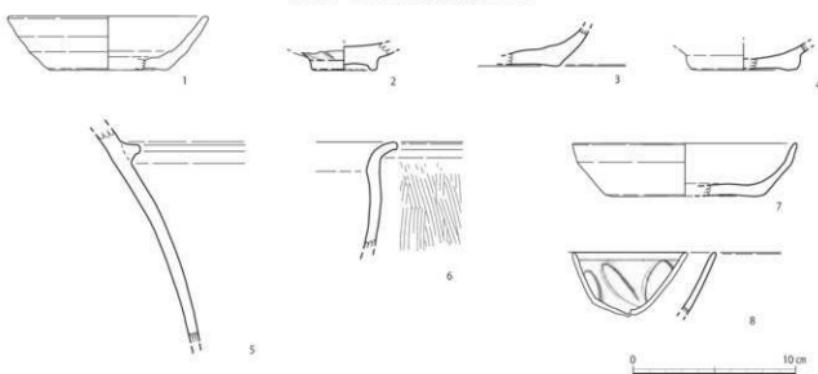
第7図 井戸実測図 (1/30)



第8図 土坑実測図 (1/40)



第9図 土坑出土遺物実測図 (1/3)



第10図 その他の遺構出土遺物実測図 (1/3)

IV 総括

今回の調査では、掘立柱建物2棟、井戸1基、土坑1基、ピットが多数確認されている。これら遺構の時期について出土遺物が少なく、明確な時期比定^{註1)}は難しいが、土坑から幅の広い簡略化した蓮弁文が施された上田編年B類IIと想定される碗(第9図1)が出土していることから、14世紀代の遺構と想定される。1号掘立柱建物からは、古墳時代後期頃と考えられる甕が出土しているが、隣接して検出された土坑と埋土が同様であること^{註2)}、検出時に14世紀末~15世紀前半の青磁片が出土していることなどから、1号掘立柱建物の時期については土坑と同時期のものと考えておきたい。また、2号掘立柱建物と井戸についても時期を示す遺物が確認されていないが、1号掘立柱建物に隣接し、軸がほぼ直角に交わること、井戸についてはこれらの建物付近で検出されていることに加えてそれぞれ土坑と埋土が同様であったことから、これらも土坑と同時期の遺構であると想定した。また、この建物については、配置や付属施設(井戸屋形)などから中世の屋敷跡と想定したい。

このほか、検出時に確認された遺物については、弥生時代後期前半と想定される甕、古墳時代後期頃と考えられる甕など中世以外にも幅広い時期の遺物が出土していることから、調査区周辺では中世以前から人々の活動があったと考えられる。

以上のことから、日隈城北側の沖積地に築城以前から中世の屋敷が営まれていたことが分かった。日隈城の周辺は、築城の以前から武家などの生活の場として活用されていたと考えられ、こうした地域を取り込んで中世城郭が築かれたものと考えられよう。このほか、弥生時代や古墳時代の遺物の出土は、平縁細線式獸面鏡が出土したと伝えられる日隈古墳との関係も想起され、この一帯が重要な場所であったと考えられる。このように今回の調査から地域の歴史を理解する上で重要な成果を得ることが出来た。

註 1) 各遺物の時期については、以下の資料を参考にしている。

磁器 上田秀夫「14~16世紀の青磁窯の分類」『貿易陶磁研究No.2』 1982 日本貿易陶磁研究会

註 2) 調査担当者の当時の記録による。

第1表 出土土器観察表

| 回数 通号 | No. | 遺構名 | 種別 | 目録 | 法量(cm) | 測定値 | 底径 | 高さ | 調査 | | 胎土 | 焼成 | 色調 | | 備考 | | |
|----------|-----|-------|-------|----|---------|-----|-------|---------|-------------|---------|---------|------|-----------|-----------|-----------|-----------|---|
| | | | | | | | | | 内面 | 外面 | | | 内面 | Hue | | | |
| 第5回 | 1 | 1号掘立柱 | 圓錐形 | 甕か | - | - | - | 直筒 | 口輪ナデ | 口輪ナデ | E | 良 | 灰白色 | N 7/ | 灰白色 | N 7/ | |
| 第9回 | 1 | 土坑 | 甕 | 圓 | - | - | - | (4.1) | ロクロ | ロクロ | - | - | - | - | - | - | |
| 第9回 | 2 | 土坑 | 圓錐 | 甕 | - | - | - | (3.1) | ロクロ | ロクロ | - | - | - | - | - | - | |
| 第9回 | 3 | 土坑 | 土608 | 直 | - | - | - | 1.7 | ヨコナデ+ナデ | ヨコナデ | A+C+D | 良 | 浅黄褐色 | 10 YR 8/3 | 浅黄褐色 | 10 YR 8/3 | |
| 第10回 | 1 | 1号掘立柱 | 土608 | 坪 | (2.2.3) | - | (7.5) | 3.3 | ヨコナデ | ヨコナデ | A+C+D | 良 | 浅黄褐色 | 10 YR 8/3 | 浅黄褐色 | 10 YR 8/3 | |
| 第10回 | 2 | 1号掘立柱 | Tr | 青磁 | 圓 | - | - | (3.8) | (0.7) | ロクロ | ロクロ | - | - | - | - | - | - |
| 第10回 | 3 | P5 | 1号掘立柱 | 坪 | - | - | (2.3) | ヨコナデ+ナデ | ヨコナデ | A+D | 良 | 浅黄褐色 | 10 YR 8/3 | 浅黄褐色 | 10 YR 8/3 | | |
| 第10回 | 4 | P3 | 1号掘立柱 | 圓 | - | - | (0.4) | 0.7 | ロクロ | ロクロ | - | - | - | - | - | - | |
| 第10回 | 5 | 焼出 | 赤生土器 | 甕 | - | - | - | (0.3.2) | ヨコナデ+ナデ | ヨコナデ+ナデ | B+C+E+G | 良 | 灰白色 | 10 YR 7/4 | 灰白色 | 10 YR 7/4 | |
| 第10回 | 6 | 焼出 | 土罐器 | 甕 | - | - | - | (0.5.9) | ヨコナデ+ハリ口+ナデ | ヨコナデ+ナデ | A+C+E | 良 | 暗褐色 | 5 YR 6/6 | 暗褐色 | 5 YR 6/6 | |
| 第10回 | 7 | 焼出 | 土罐器 | 坪 | (1.3.7) | - | (0.6) | 3.3 | ヨコナデ | ヨコナデ | A+C+E | 良 | 暗褐色 | 5 YR 6/6 | 暗褐色 | 5 YR 6/6 | |
| 第10回 | 8 | 焼出 | 青磁 | 圓 | - | - | - | (3.9) | ロクロ | ロクロ | - | - | - | - | - | - | |

法量の単位はcm。(○)書きは、残存と復原を表す。

胎土: A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子 G雲母 H砂粒



調査区空中写真（上が北）



発掘調査状況（南から）

写真図版 2



① 1号掘立柱建物（北から）



② 2号掘立柱建物（東から）



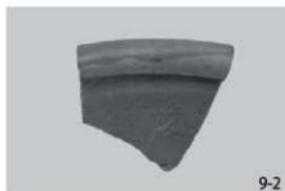
③ 井戸発掘状況（北から）



④ 土坑発掘状況（南から）



9-1



9-2



10-1



10-6



10-8

報 告 書 抄 錄

| ふりがな | むらまえいせき | | | | | | | |
|---------------|---|---------|----------------------------|-------------------|-------------|-----------------------------------|-------------------|------------|
| 書名 | 村前遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 日田市埋蔵文化財調査報告書／市内遺跡発掘調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第128集／18 | | | | | | | |
| 編著者名 | 上原翔平 | | | | | | | |
| 編集機関 | 日田市教育庁文化財保護課 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6-1 0973(24)7171 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2017年(平成29年)3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所取遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 村前遺跡 | 大分県日田市 大字庄手 | 44204-6 | 204324 | 33° 46' 30" | 132° 49' 2" | 1995 0208 ～ 1995 0302 | 943m ² | 記録保存 調査 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 村前遺跡 | 集落 | 中世 | 掘立柱建物 2棟 井戸 1基 土坑 1基 | 弥生土器・土師器 青磁・白磁 | | | | |
| 要約 | <p>村前遺跡は、日田市内中央部、三隈川とその支流である庄手川に挟まれた微高地に位置する。周囲は三隈川の氾濫原であり、土層から過去にもその影響を受けていると考えられる。</p> <p>調査では、掘立柱建物の他に、それに付属すると考えられる井戸や土坑が確認されている。これらの時期については、出土遺物が少ないので中世と想定される。</p> <p>調査区周辺は、日隈城が所在しているが、その築城以前から周辺で集落が営まれていたことを確認することができた。</p> | | | | | | | |

村前遺跡

2017年3月31日

| | |
|----|--|
| 編集 | 日田市教育庁文化財保護課 |
| 発行 | 〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6-1 日田市教育委員会 |
| 印刷 | 〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6-1 山本印刷工業有限会社 |
| | 〒877-0059 大分県日田市大日町3986-3 |

